

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
431	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol and cardiovascular health アルコールと循環器健康	
執筆者	
Arthur L. Klatsky	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Physiol Behav. 2010 Apr 26;100(1):76-81. Epub 2009 Dec 31.	
キーワード	
飲酒、循環器疾患、冠動脈疾患、心不全、リスク因子、疫学、ワイン、ビール、蒸留酒	
要旨	
<p>多量飲酒による実質的な身体への悪影響については、低い有害性または安全な飲酒量の存在と同様近年明らかになった。最近の疫学研究は、少量飲酒者において罹患や死亡のリスクが低いことを示している。したがって、1日3標準飲酒以上を多量飲酒と定義すると、飲酒と死亡率の関係は、死亡率が多量飲酒者で最も高い、少量飲酒者で最も低い、非飲酒者で中等度高い、というJカーブを示す。非循環器または循環器臓器への多くの悪影響が多量飲酒による上昇した死亡率を説明する。少量飲酒者の低い死亡率は、主に、最も一般的な循環器疾患である冠動脈疾患の低いリスクによる。飲酒と疾患とにおけるこれらの関連は、現代の飲酒と健康に対する概念を形成している。多量飲酒による上昇した循環器疾患リスクは、(1) アルコール性心筋症、(2) 高血圧、(3) 不整脈、および(4) 脳出血、を含む。少量飲酒者は、どんな循環器疾患でもそのリスク上昇との関連が明らかでなく、そして、観察研究では、低い冠動脈疾患、脳梗塞および糖尿病のリスクと関連しているとする。冠動脈疾患の保護作用については、エチルアルコールに起因する説得力のある生物学的メカニズムのエビデンスによって支持されている。国際比較といくつかの前向き研究データは、ワインが蒸留酒やビールより冠動脈疾患に対する強い保護作用をもつことを示した。ワイン(特に赤)に含まれる、アルコール以外の有益である可能性がある含有物は、ワインによるアルコール以外の保護作用の可能性を支持するが、ワイン飲酒者におけるより健康的な飲み方や生活習慣が関係しているのかも知れない。</p>	